滿洲日報

滿暦九月六日(きのえ、うま)

●新聞代價表 一枚三錢 一ヶ月金六十錢 半ヶ年金三圓四十錢 一ヶ年金六圓五十錢 滿洲各地への配達は郵税一不申受

●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 特別廣告は合

發行所 營口南本街 滿洲日報社 電話 編輯室一二一 事務室二一九

遼陽倉庫前六一二 滿洲日報社支局
奉天大東門内 滿洲日報社支局
全十間房 滿洲日報社出張所
鐵嶺火神廟街 滿洲日報社支局
公主嶺支那町 滿洲日報社出張所
新家屯驛前 滿洲日報社支局
大連信濃町 滿洲日報社支局
長春城内 滿洲日報社出張所

特別廣告

郵便局移轉

當局及小包分室共來ル十一日正午十二時ヲ以テ永世街舊郵便局官舍跡(舊巡警總局向フ角現在當局裏門ヨリ約二丁半西)ニ移轉ス

明治四十年十月九日
牛莊郵便局

毎日録

十一日午前　覆面冠者

犬塚の信太郎と田中の清次郎は一夜ジャン拳にて扇芳亭の芳子を爭へりと傳ふ、事固より虚なるべし、然れども予は之を聞て著るしく興味を感じたり、何となれば滿洲商人の商賣振は總てジャン拳主義なれば也滿洲商人の成功せる輩はジャン拳に打ち勝てるなり、彼等は拳に勝ちて芳子を一夜妻となせるなり、一夜明くれば即ち彼の手より芳子は自由に逸出するも故障なきなり滿洲の成上り者の財産は殆ど芳子の如し、今日あつて明日を測り知るべからず、ジャン拳に勝ちたる彼等は廳て負けて敵手に財産を奪はるゝの機會あれば也

商人にとりて最も危險なるは資本の固定にあり、昔て鴻池銀行は大阪築港附近の土地を買占めて資本を固定し多大の打撃を受け危機一髪の急に迫りたることあり、世之に類せること少なからず、具眼の士は深く戒むる所ろなかるべからず

營口に於ける二三商店の陳列品を觀たりなり、極端に申しては大だ失禮ながら、先づ内地の不用品を陳列せるやに感ぜらるゝに、孰れも内地ならば御免蒙りたき物ばかり勿論需要者が需要者なれば之れが却つて結構かも知れず、そう思へば御尤と首肯ばかりなり

見事なる金蒔繪の重箱に黒砂糖を使ひしボタ餅を一並べに入れて帛紗包にして恭しく進物とするは京都式なり、營口に來りて予は何んとなく京都式を聯想せざるを得ず讀者諸君、京都は決して商工業地にあらざるを記せ、それ以上に言ふは臆病なる予の能はざる所なり

投書あり云く、水電第二回拂込を來春に俟つとの貴意太だ佳なりと、予の卑見にして、幸にして一人の同意者を得たる、心細きこと乍ら亦た多少の快心事なり、讀者諸彦、貴見を寄するに吝なるなくんば予の特に光榮とする所なり

□大阪毎日の論調 ……十四日の社説……林公使は嘗て京城に在るの日も問題を片付けざるを以て有名の目わり、一昨大阪經濟會の演説に聽くに滿洲問題に就ても亦此主義にて急いで解決する心なきを言明す知らず、彼黄河の清むを待つか。

善隣時事

▲清國の報償要求　上海よりの來電なりとて傳ふる所に據れは佛白シンジケートは清國が契約期限の終了を俟たずして公債を償還せんと希望し居れるを知り莫大なる報償を要求せりとの説ありと

▲各國公使會議　北京駐劄の各國公使は去る四日集會を開き兩宮に謁見し詞を合して貝子貝勒を海外に派遣し各國を遊歴して智識を増さしむべしとの奏請を爲すとに付き會議したるが先づ之を確定して後外部に通告すべしと

▲張中堂と京漢鉄道　京漢鐵道を回贖すべき説は既報の如くなるが張之洞氏は之に付き若し清商が此款を籌することを得ば宜しく雲南鐵道を布設すべし京漢鐵道の回收の如きは後にて可なりとの意見ありと云ふ

▲法律修正の請願　駐歐各清國公使胡維德、孫寶琦、劉式訓、李盛鐸、錢恂等海牙萬國平和會議專使陸徴祥と相會して清國法律修正のとを議し其代表者として陸徴祥より外務部に對し左の意義の請願を爲し來たり抑も我國の各國と比肩し得さる所以は法律の不完全なるに起因す今回の平和會議に於て各國は我國を以て同等として相對せざりしは全く我か法律の各國と大に異る所あるか爲め同一の利益に均霑せしむると能はすとの口實によるものなれば法律の修正は實に目下の急務にして且つ我國主權を保全する唯一手段なりとす云々此旨直に外務部より上奏せられたるが既に法部に交し其修正案に付き講究せしめられたりと云ふ

▲大瀛船會社設立計劃　過日張袁兩軍機か政府諸大臣と會同し大瀛船會社を設立し專ら米國濠洲海峡殖民地及南洋諸島等に至るの航路を開始し以て海上の商權を握らんとを議したり而して其資本は商人の合資たらしめ政府は年々補助金を支給する都合にて已に農商工部及郵電部に命して精密なる計畫を立てしめたり

▲憲政會上書の内容　過日日本留學生憲政會が民選議院開設の請願を爲したる事は既報の如くなるが今其上書の綱領を擧ぐれば左の如し

一、國會と政府と相對して行政を監督し以て官吏の惡弊を除くと
二、議院は政府の方針に準して監督に任し政府諸大臣は個人の意思によりて國政を左右するを得さると
三、民選議員の意見に徴し國民の負担を定め民怨なからしむると
四、民選議院を以て立法機關となすと
五、人民をして國政に參與せしむるは國家思想政治能力を發達せしむるに最も必要なるとなれば速に採用せられたきと
六、人民は上下の別なく同一の權利義務あり決して滿漢の種別を設けさると

▲考査憲政大臣の出發期　各國憲法視察の爲め今回差遣せらるべき考査憲政大臣等は本月廿一日を以て隨員五名と共に北京を出發し先以て上海に赴く都合なりと

營口に於ける清國金融機關(其三)

一記者調査

さて支那固有の金融機關なるものは其性質に於て概畧以上述へたる如きものであるが事實如何なる名稱のものが如何なる事業を爲しつゝあるかに就て之から述べやうと思ふ支那固有の金融機關には其種類は少くはない又所によりて其名稱も場所によりて種々の變化がある先つ其主なるものを擧ぐれば銀號、錢莊、票莊(票號)銀爐、錢舖、官銀號、公估局及び當舖等て、尚此外に地金銀を取扱ふ金店、銀樓なるものもある、又た零砕なる金貸業、質屋業等を擧くる時は種々の名稱のものかあるけれとも之れは省くとして右に擧けた各個に就て簡單に説明して置かう

●銀號及び錢莊は何れも主として銀票錢票の發行及び貸付預金等の事務を取扱ふ故に先づ普通銀行のやうなものである、●票莊は爲替業が主なる事業てあるが、預金貸付をも取扱ふことがないでもない、●錢舖は處によりては其名稱が錢莊と同じ意義に用ゐる、事あるけれとも普通の意味の●錢舖は我日本の兩替屋てある、而して●官銀號は紙幣の發行貸付預金等を爲す所もあるが、重なる職務は官金保管と云ふとにある、兎に角に以上數種のものは名稱こそ異るが、事實に於て大同小異同一の業務を爲すものと見て差違はない、次に●銀爐は馬蹄銀の鑄造が主要なるとて、●公估局は此馬蹄銀の鑑定を業とするものてある、●當舖に至りては補助的金融機關で日本の質屋と同一である

滿鐵の統治批評

近着の萬朝紙上に滿洲新寄客談として左の如き記事掲げられたり吾徒の意見と或点に於ては全然反對なるあるも兎も角も他山の石として讀者の一讀を煩はす

滿洲を旅行して何人の眼にも日本の不利と映ずるのは新奉鐵道を清國に讓渡した事だ過去の歴史が之を餘儀なくしたとの辯解もあらうが現在滿洲の大貨物たる大豆、豆粕等の鐵嶺以北から出るものは何れも新奉線でズン〳〵營口の方へ出て行くのが爲め營口の繁昌は増して來やうが滿鐵が貨物收入の減少は驚くべきである▲滿鐵現今の收入は一日に約一万圓に過ぎぬ勿論十月以降順次增加して來るのは例年の例であるが此の收入に對し會社が一箇月に支出する俸給三万六千圓吏員を使役すること一万二千人である彼の獨逸が經營して居る山東鐵道の如き僅かに二百哩に過ぎぬ線路であるが吏員の經濟は巧妙て到底滿鐵と比較は出來ぬ▲後藤總裁が近來聲を大にして部下の大淘汰を行ふ樣になつたのは尤もの次第であるが我淘汰側から云はすれば決して淘汰ではない新舊吏員の軋轢の結果新勝舊敗となつたのだ殊に鐵道提理部時代から居る者共は兎に角内地の鐵道で腕を鍛へた者であるに新しく來たのは多くは素人であるから舊吏員の勢力は勿々侮り難いものがある彼等は同盟罷工に損あるから各驛に豚路を通じて滯車を遅らせたり貨物を停滯させたり間接に新來の者共に當つて居るので所謂淘汰の實行も困難であるさうだ▲今の滿洲が滿鐵の滿洲であるといふ事は何れの點から見ても立證されるが又他方面から見れば三井の滿洲であると云ふても宜い三井が色々の事業に手を延して居るのは感服と云つて然るべきだ滿鐵と三井の關係は實に密接て運輸部長の田中氏鐵山部の犬塚氏等は共に三井を代表して輸送貨物の貨車の增發を始め其他の特典を與へるので在留日本人は何事も三井の手を通じてやらなければ損をするといふ傾向を有して居る▲後藤總裁の直營主義に就ては貴社が逸早く報道されたるが大連に於けるホテル營業に次て貨馬車、人力車客引、洗濯、浴場皆悉く滿鉄の手に成つて居る而かも在留日本人と競爭して安くやるから其の結果は同胞の職業を奪ふ事となるので評判が又至て著るしい譯である▲殊に大連の民政署は滿鉄の役所と云つてもよい關屋氏が罷めてから今度臺灣から佐藤氏が來るそうだが日本人か申出でる事は何でも滿鐵の利害と衝突する以上許可さぬとの事て是亦非難の火の手が高い樣だ▲要するに害を見るに敏にして策略に富む後藤男は對清政略には頗る如才ない樣だが對内人策には將來又々面倒を惹起しはせぬか男は表面は太平樂を粧ふて居るが内心は苦心に堪へぬ樣だ而かも其部下の若手理事は議論巧みだがイザ實行と云ふ段となると覺束ない事が多いといふ評もある

滿洲百人物

(二)　男爵 後藤新平

天下知ることなくして而して知らざることなき者あり、我が後藤新平氏の如き則ち其一人たり。

辯ずる者は辯ぜざることあり

新平氏は中橋德五郎氏と共に大法螺の好對として天下に稱せらる、詹々たる二者の辯説は果して無用の長物なるか光焰あり氣魄あり、而して理義的確なる彼の辯は則ち所謂至言は日に出づる者にあらざる歟、但だ時に辯を惜んで訥々たるある、辯を好んで辯の過に陷らざらんが爲め、用意周到と謂ふべし其識度、其手腕、其人才を駕御するの巧、其事務の大綱を總攬するの明、到底凡寰の者にあらず、見玉にして後藤を知る、英雄にして英雄を識ると、古の人我を欺かず。

彼れ今や臺灣統治の効績を再び我が滿洲に擧げんとして意氣太だ壯、十年二十年の後、子となり伯となりて、後世に奇蹟を殘すあらば、新平氏の望み足りなん矣。

彼れ百忙中に閑を偸んて、書畵を愛し骨董を鑑し、又三更短檠に燭を剔て古人の道を學ぶ、若し夫れ鴨涯の紅樓閣に鋏光に親しみ鬢影を逐ふが如きは英雄の閑日月を示すもの、必ずしも不可ならじ。

夫れ滿洲は百鬼夜行の野なり、太陽一たび出でゝ、則ち遁逃して迹を潜むや否耶、吾徒不幸にして未だ之を知らず、噫。

▲日報文壇▼

弟妹に贈る　しげを
文なくば恙あらぬと知りねかし大和武夫は神ぞ護れる

偶感
母まさず父もいまさず此のゆふべ憂さふし語る友もあらなく

課三題集(其二)　風生
遠きぬた川を隔てゝ月夜なり
同　町は犬ひなにきぬたの月夜哉
同　御城下はむかしの儘の砧かな
同　臼の樣なお尻ふりゆく踊かな
同　積置きしわらのちらばる踊哉
同　女三人男をなぶる踊かな
同　女裝してあやしく踊る手振哉

快男兒

第八十八回　渡邊默禪

お琴は餘りの訝かしさに、闇に蠢く影を佶と睨みて　琴『爾いふおまへは誰だ、何者だ』と咎め立るや、此方は猶も近くに摺寄り、△『私は此處の了伯に深え怨みがあるから只だ一打に殺らそうと思つて、やつて來た兄漢しだ　琴『エツ、當家の主人を殺さうとして……そりや何の怨みで　△『何の怨ッて、おめえ、彼の了伯ッてえ野郎くれえ、太えやつは有りやしねえやな、立派な玄關を張りやがつて、豪勢な生活を爲て居るけれど、素性を洗つて見たら會津の藪醫者、人の婢アや娘は手當任せに引かける、毒を盛つちやア人をコロリと往生させる　琴『エッ』　△『おまけに泥棒騙取、强盗まで稼いで來た金箔附の惡黨だ』意外の中の意外の人より、意外の事を聞くお琴、それはとばかり驚くのみ、眞か虚かを判すべき遑だになし　△『といつても、奴の秘密を知らねえおめえさんなら、眞箇には爲なさるめえ、それは兎に角私の親の代に、了伯に欺されて五百兩てえ金を貸したんだが、日限を過ぎても返へさねえから烈しい催促をすると野郎苦し紛れに親仁を誘き出して、何を食せやがつたか、其場てバタバタッと死んぢまつたんだ、加之に懷中の紙入に仕舞置いた筈の、證文が失くなつたから、變だ〳〵と思ッてゐた所が、此頃になつて稍と分つた野郎の惡事、親仁も例の傳で一服盛られた上、證文を拔れた事と勘附いたけれども、情ねえ事には肝心の證據が無えンで公儀へ持出しても、お取上が無え、それが餘り口惜しいから、寧その事に寢首を刎ねて親父への追善に爲やうと今夜忍び込んだ、處が寢床が何處だか分らねえので、此の土藏の中へウカ〳〵迷つて來たのだ、スルとおめへが刄物をひねくりまわして、自害でも爲やうッてえ樣子だから、俺ア恐ろしく肝を潰したらうぢやねえか、一體おめえ甚那譯から、死ぬとまで思ひ詰めなすッたんだえ、倘しや矢張了伯の手に懸つて、誘拐されたとか欺されたとか、但しは脅かされたとか、そんな事から此の土藏の中へ、叩ッ込まれたッてえ一件ぢやア無えか、爾いふ事故なら私も男だ、怨の霽らし序におめえさんを此處か連ら出してよ、何處へでも送つて進ぜる、野郎にアッと喫驚させて遣りてえが、決して心配する樣な私ぢや無えから、ザッと譯をお噺しなせえ』と窃めき告ぐる言葉に、始めて棟庵の素性を知り昨日からの振舞に思ひ合して呆れ果しと倶に得體は知れねど賴母し氣なる人の情に、心機自つと一轉して、左程の棟庵ならば繼母の菊代と、口を揃へての物語は漫然とは信ぜられず、或ひは我の淺墓なる智慧にては想ひはかられぬ、深き秘密の其の間潜みあらずともいひ難し、良人帶刀か病死したりといふ事すら、疑ひ見れば何となく怪しき心地をもするを、這は死なずも容易には死なれず、只にあれ白刄を把りたる刹那に、係る人の不意に現はれて死を妨げたるも、我を憐み玉ふ神の御使ひにぞあらん、姑く恥を忍びて此處を逃れ出て、棟庵の事柄良人帶刀殿の生死などをも猶よく確めたる後、愈々望なき境に臨まば、其時死すとも遲くはあるまじ、命は二つと無きものをなど急ぐべきことかは』と、思ひ直し　琴『ハイ、妾しはお察しの通り、當家の主人に無理難題をいひかけられて、斯樣な所で究命をさせられて居る者で御座います、それが辛さに自害をいたそうと、實は覺悟をしたので御座いますが、考へて見れば、此處で果てますのは、些と無分別の樣に存じられますから、それではお言葉に縋りまして、一旦逃げて出るに致しませう、お手足纏ひで無くば、御一緒にお連れなすつて下さいまし、委細の事情は後刻で、寛々お話しいたします　△『ムン爾なせえ死ぬのは何時でも死ねる、彼樣野郎と首ッ引の犬死をなすッたッて、サッパリ榮えはしねえやおやア外にモウ一人同類がありやすから、此處へ呼んで來ておめへさんの伴をさせやす、一寸お待ちなせえ』と土藏を立出てしが、程なく一人の黒き影を眼の前へに添えたり　△『サア姐さん、此奴の肩に負さッてお逃げなせえ、歩いて貰ふよりか其方が世話が無くッて可いから……、親の仇討は今夜は拙が惡いから、此の次まで延しやした』と囁きつゝ、伴ひ來れる漢子にお琴を背負はせて帶をぐる〳〵と捲き共に土藏を立出で、廊下先より座敷の方へ拔けんとするや、足音人の氣配に眼を覺して怪しと認めし同家の書生、用心棒を小脇にかい込んで待伏せ居たるものと見え　書『泥棒ッ』と大喝してビーンとばかりに打下す棒を潜つて早くも身を躱しさま、スラリと拔たる短刀は忽ち書生の肩先へ、血煙立たせてどッと背後へ切仆す、此時お炊は物音に驚き醒て、泥棒と聞くより裸體の儘飛起きつゝ臺所より擂古木の太きを持ち來りて　婢『どど、泥棒待てッ』と見當もなく躍りまわるを一人の賊は出會頭にポンと蹴飛し、後をも見ずに一目散庭口より逃失せたるが、かゝる騷ぎは離亭に寢ねたる棟庵、菊代も、白川夜船ては濟まされず、急ぎ押取刀の雲洞片手に、バタ〳〵と駈け附けぬ。

□紳士淑女の御得意(若くは御道樂)　△△生

小田切万之助君　支那語が最御得意だが洋食のテーブルマスターもうまい
岡部二郎君　翻譯が御得意だが英佛獨の小說を讀むのが道樂
窪田領事令夫人　英語が御得意だがそれよりか社交は女流界では妙らしい
窪田領事　英文が御得意だが歌と俳句が隠し道樂らしい
内藤書記生令夫人　ピアノが何より御たのしみ
後藤新平君　書畫骨董と法螺の貝
平岡佳吉君　刀劍いぢり
速水一孔君　藏書と書道は得意て且道樂
達村容吉君　筑紫琵琶が隠し藝の第一
加藤總領事令夫人　赤十字と愛國婦人會が一番御すき

●我紙は滿洲商業の唯一機關を以て任じ記事精確趣味豐富在滿邦民及び滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

倫敦電報

●暴動事件審判（十日特發）

新香坡暴動事件に關する審判は全地に於て開始され第一被告は六ヶ月の禁錮に處せらる

●佛國の洪水（上）（全）

佛國に大雨あり洪水滔々としてローン、リーブル兩河に溢れ多數の家屋流失せりアールデシエに於てはレプーザンホテル壞倒し五名の死者を出せり其他溺死者九名ありマルセーユ、巴里間の滊車は迂回の爲め十二時間遲着せり

奉天電報

●滿漢同待遇の上諭

十一日零時四分奉天支社特電　從來滿漢官民の間に禮義刑罰を異にしたるが今回皇族を除くの外此區別を廢する事とし禮部法部及び民政部に命じ改正を行はしむとの上諭去九日發せらる

●度量衡統一の上諭

從來度量衡の統一を缺き內外商業に頗る障害有りしが今回之れを統一する事に決し農工商部に命じ六月以內に改正せしむとの上諭九日發せらる

大連電報

●水產打合會

十一日午後二時五十分大連支社特電　本日滿洲水產會社創立打合會を開けり

●水產組合會

來る十六日關東州水產組合會を開き來年度の事業に就き協議する所ありといふ其豫算は三万三千圓なりといふ

●田中理事出張

本日田中理事長春に向ふ

●日銀理事國庫金調査

國庫金調査の爲め來れる日本銀行の岩崎程藏氏は當分當地に滯在の筈

●實業會の調査

棧橋直營に關する實業會は各港と比較調査をなし而して更らに滿鐵に言ふところある可しと云ふ

●本社懸賞品授與

角力今一日更に當地慈善團体へ寄附の爲め興行十三日奉天に向ふべし本社の懸賞は琴の浦受領せり

雜報

●西太后の御落淚

清國西太后は此程密かに慶親王袁世凱の兩氏を御前に召され內治外交に關する重要問題に就き種々御下問ありたる後「中華の外患內訌は何が故に斯くまで甚しきぞ朕は遂に爲す所を知らず」とてさめ〲と泣伏し給ひしが稍や暫らくあつて淚を拂ひ「朕は立憲の制度を此上なきものと思へど之を採用せんとすれば意外の邊より故障を生じ果して實行するを得るや否や今ては覺束なく考ふにぞ」と云はれたるに慶邸、袁氏とも流石に返す言葉なく四圍の光景物凄きまでに打濕めり僅かに白太理石にて飾られたる置時計の時を刻むを聽くのみなりしが斯くてあるべきに非ざれば兩氏は徐ろに頭を擧げ「清國を救ふの良策は憲政の施行を措て他に求むべきなし寸時も速に之を布かざるべからず陛下も亦た切に聖慮を此に留め給はんことを請ふ又內訌の如きは是れ一家の私事にして國家の公憤に非らず深く宸襟を煩はすに足らず」と奏し共に感慨悲壯の情に堪へずして引退さたる由なるが西太后が袁張兩家の姻親たらんとを仰せられしも是等の消息に基くことならんと云へり

●徐總督歸任確定

昨紙奉天電報の報するか如く徐總督の上京に就きては官場種々の傳說を爲し歸任の望みなきか如く噂されたるか事實全く之に反し總督は政府と要務の協議を了し愈々二三日中に歸任の途に就かるゝ事に決定せりと

●駐日清公使談（上）

去三日夜下關より神戸へ入れる新任清國公使李家駒氏は全地に於て左の談を試みたりといふ

▲清國の將來と留學生　目下清國より海外に派遣せる留學生は日本に七千人歐米に三百人位なるが此等の學生が卒業後本國に歸り清帝國のために活動するといふ事となれば清國は自然に發達し內治外交その他の政治を改良することを得べきを以て清帝國の今日は猶四十年前の日本が全國の俊才を歐米に派遣したると同樣一に留學生の成功を祈り居れり而して留學生中歐米への學生を區分すれば文學の生徒は米國に多く兵學に關する方は英國及獨逸に多き模樣なり

▲北京大學堂と日本語　今日にては師範科と高等普通科とに分ち師範科にては教員を養成し高等普通科にては他日七分科大學設置の豫備として必要なる高等普通學を教授し居れりこの高等普通科中に日本語の加はり居らざるより兎角の議論ある樣なるが今後愈よ七分科大學を設置するの運びに至らば他の外國語同樣之を各分科大學に入るゝこととなるべしと信ず

▲清國の國民教育　清國は前項北京大學堂の外に各省に文武の學堂を設け大に教育に力を盡し居れるが未だ日本の如く全國に小學校を設置し統一ある國民教育を施す迄に進み居らざるは誠に遺憾なり然れども清國は版圖廣大にして地方によりては產業振はず兒童を教育するだけの資力に窮するもの多きを以て先づ產業の發達を圖りて漸次其步を進むるより外なかるべし

▲清國公使の入京　去る四日午後二時七分平沼驛に下車せし新任清國公使李家駒氏は橫濱領事館へ立寄り小憩後大同學校孔子祭に臨場職員生徒に對し一場の訓戒を爲し五時四十六分橫濱發にて入京せりと

●新任清國公使夫人　令息令孃及び隨員用培炳氏を伴ひ七日朝筑前丸にて長崎より神戸に着し清國領事府に入れりと

●露國領事の更迭　長春露國領事今回轉任するに就き其後任として當地露國領事が近日中に赴任すべしと云ふ

●奉天支那官憲の俸給　東三省新官制の發布と共に各官吏の俸給額を確定せられたるが左に其表を示さん（一兩は我か約一圓五十錢）

官職名	人員數			俸給額
總督		一	一個月	五千兩
巡撫			同	三千兩
參贊	二員	每員	同	一千五百兩
司使	六員	同	同	一千兩
道監	二員	同	同	八百兩
顧問員	二員	同	同	二百兩
僉事	三十七員	同	同	二百兩
議員	五員	同	同	一百五十兩
一等科員	三十九員	同	同	一百五十兩
副議員	一員	同	同	一百兩
二等科員	三十九員	同	同	一百兩
三等科員	七十八員	同	同	八十兩
司書官每科二員	七十八員	同	同	四十兩
副司書官	七十八員	仝	仝	二十兩

合計一個年銀五十七万五千〇四十兩

●蔡道台送別　蔡道台赴任以來日尙ほ淺きに係らず營口商業界及び教育界に貢献する所頗る多く且つ紳商と提携して行政の革新を計りし等當地市民の爲め多大なる恩惠を蒙らしめたりしが今回天津海關道に榮轉し不日當地を辭する事となりしを以て紳商等は其功德に報いんが爲め近日中に盛大なる送別會を開かんとて目下準備中なり尙ほ道台の出發期は本月下旬なるべしといふ

●大阪に於ける林公使の招待會

大阪經濟會の主催にて去二日午后六時大阪ホテルに於て林駐清公使の請待會あり町田忠治氏の挨拶に續き公使は清國の現狀に就き一場の演說を爲したり其の要は清國と我か國との關係上大阪は商業上直接樞要の地位にあり而して其の對清貿易の盛大を期せんには先づ清國と益々親善なるべきを肝要とすされと親善の度を進むるには智識あり且歐米各國の事情にも通せる人間を長く彼の地に派遣するより良きはなし去れども是は轉移常なき現時の領事其他の官吏に望むべからず希くは大阪實業家諸子永遠の對清貿易發展策として品位あり學識ある人士を實業家自身の手を以て彼の地に派遣し清國上下の官民と親交せしめよ云々と述へ互に胸襟を開きて相談り八時半散會せりといふ

●後藤總裁談　……東京にて或人に語れる……

▲上京の用向　今後の事業遂行上諸種の打合を爲すに在り滯京は約二周間の豫定にて議會の開會前には會社の議會（株主總會）もあれは其頃更に上京すへし

▲民政權の占有說　近來新聞紙上に於て會社が關東都督府の民政權を掌握し專横を極め居れりと攻擊するものあれとも民政は依然都督府の權能に屬し之を會社に移したることなし

▲幣制の改正　會社の銀本位制を排して金本位制を採用したるは近來銀の相場騰貴し百圓に付四圓の步合を有せるを以て會社の損失を防ぎ並に步合の差を計算する手數を省略するの趣旨に出てたるものなり余か之を專斷したるに對し或筋より叱責を蒙りたるも自分の職權內に屬するものと信し居れるを以て專わしたる次第なり

▲本線改築工事　滿鐵本線の改築及複線敷設工事は七、八の兩月は水災の爲め工事の遲延を來し又十二、一、二の三個月は冬季の爲め工事を中止せさるを得さるも大体は豫定の通り竣成すへき見込なり

▲安東線の改築　安東線の改築及線路の變更如何は猶ほ一回技師をして實地精查せしめたる上決定する考なり　（未完）

口酒味香

內訌と暗鬪を以て互に睥睨陷穽しつゝありし大連の長袖界も、此程組織の變更と役員の改選に依て漸く一段落を告げた▲だが表面は平穩無事に和氣靄々の裡に結局した如くなるも、內部は依然新舊二派と別れ、不相替双方竊に疾視して突貫の機會を窺ひつゝあるやうだ▲新舊合計目下十六名て、之を色別すれは舊派に屬するものは六名、新派は十名、無論後者は優勢に相違ないが、少數者即ち舊派は久しき以前より當地に住し、從て多少の資產と根底とを有して居り、其領袖連には板谷、小島、菊地、近藤といふ有力家が居る、此等の諸クンは假令患者は減るも金利は鼠算的に增殖するといふ暢氣な點がある▲之に反して新派の方は永井、河野、秋山の三クンを中心として何處迄も伎倆を以て舊派を壓倒せんとして活動を繼續して居る、尤も永井クンを除ては漸く昨今大連に開業した斗りて、根據も後見人もないけれともだ▲河野クンは朝鮮て統監府の醫務囑托として、私立病院長として、同仁會常議員、赤十字社地方委員等を兼ね、一時は韓國刀圭界に覇を稱したる腕前を有し▲秋山クンは多年陸軍々醫てあり、有位帶勳の老武者てあるからは舊派に取りては勇々敷大敵てあらう。

●對清貿易準備　林駐清公使の意見……

▼日本と清國との政治上貿易上の關係の密接なることは今更說明する迄もないとてあるが政治上の問題よりも將來永遠の問題として研究すへきは乃ち貿易上の問題てある▼無盡藏なる清國の富源と、四億の人口とは將來日本の御得意樣として最も研究すへき所である日露再び手を結び、日佛亦相協約したる今日此等清國に關係深き列國は相互の協約に於て何れも清國の領土保全を約束して居る乃ち今後何れの國も單獨に清國の領土の事に就て勝手な眞似か出來ない樣に保險を附したと同樣てある

▼斯く列國に約束して清國の現狀維持及領土の保全を尊重することゝなつた以上日本國民は宜しく此世界の大市場に於て實益の發展に努め實利の競爭に加はらねばならぬ昨年代議士、實業家なぞ多くの人々が利源調査の名目の下にどし〲滿洲に出掛けられたが豈計らんや此利源調査の四字が非常に清國人の惡感情を招いたのてある而して抵は既に大藏省に出來て居るか又は清國の稅關表に現れて居る所のものをば虎の子の樣に持つて歸つたに過ないのである之ては態々滿洲三界に迄出掛くるに及ばない到底斯んな事をして居つて各國との競爭に打勝つことは出來ないのてある

▼第一支那と商賣をする人は支那の事情に精通し支那語を巧みに話す必要がある正金銀の如きが小田切萬壽之助君を北京に呼んだのは同君が曾て領事てもあり支那語に熟達して居るからてある今日に於て對清貿易上の最大欠點は人間に乏しいことてある▼乃ち人物の養成が第一義てある先つ支那貿易に必要な人物を養成せねばならぬ二十年三十年長久の目的を以て遣つて貰ひ度い英、獨、米の諸國は各支那の國情に精通し永遠の計を立て、着手して居る今日の樣な日本の遣方ては到底駄目てある

▼鴨綠江の森林問題や、滿洲問題の解決が手ぬるいと言ふて八釜敷攻擊するものがある然し乍ら之が解決せられた曉に果して其經營に當り得る實業家が幾人ある乎南滿鐵道を敷くのにも外國に借金せねばならぬおまけに失敗したてはないか實力が第一てある準備が必要てある民間の實業家は先つ支那貿易に對する人物の養成に力を致して貰ひ度い

●滿鐵と南清航路

南滿鐵道は撫順炭の南清地方に輸出する爲め水運事業の兼營をも特許せられあるも會社に於ては是等の事業は既設滊船會社と特約して之に運輸を委するを得策となし大阪商船會社をして斯業に從事せしむる筈なるが石炭の運輸は撫順坑採掘事業の完成後即ち今より四五年後にあらざれば之が開始の要なき差當り大連上海間に定期航海を開き南清地方と旅客並に荷物の交通聯絡を圖るは滿鐵經營上緊要の施設なるを以て來年鐵道本線改築工事の竣成と共に同社をして本航路を開始せしむる筈なるが本航路は當分は莫大なる損失を忍ばざるを得ざれば商船會社に對しては相當の補助金を交附すべき方針にて目下實行に關する諸般要件に付き調查中なりと云ふ

●上海歸客談

上海は之を十年の以前に比し市街盛觀を呈するに到りたるも其の貿易においては多少形勢を變じたるものゝ如く埠頭に出入する貨物は却つて閑散を來せるにあらざるやを思はしむ而して其此の如くなれる原因は本邦其の他より太洋航海船にして直に江河船となり上海を仲繼港たらしめずして直に溯上して漢口方面に往來するに到り上海埠頭は之等船舶の給水場と爲すに過ぎざる形勢となりたるもの主要の原因たるに似たり然れども纒りたる大口の取引に到りては到底上海以外の市場に於て纒むる能はざるが故に東洋に於ける各地の大取引に關し商人の入込むもの尠なからず其の裏面の活躍に至りて驚くべきの盛況を呈せり上海の古き歷史によりて機關整調せると東西に於ける大會社及び商店のエゼントは悉く同地に集り依然同地が東洋商業の司令者たるの地位にあるが故に取引せんとする商品が歐米の何處の製品たるを問はずまた其の輸入地が東洋の何處たるを問はず大取引に至りては同地に於てせざるべからざるに因るものなるが如し云々

●高橋正金頭取の行程　既記の如く十二三日頃新橋發馬關直行直ちに渡韓し滿洲視察は後廻しとなす由なり

●三井物產支店長會議　三井物產會社滿洲各地支店長は當地に於て支店長會議を開く筈にて長春鐵嶺奉天の各支店長は社員數名と共に既に來營せり

●家屋稅輕減請願　奉天商務總會は此程大會を開き今回巡警局か規定せる家屋稅の甚だ過重にして奉天商業の發達の爲め防害を加ふるものなれば右課稅を輕減せられ度き旨請願する事を議決したる由なるが既に其請願書は會員聯署を以て提法司に差出されたりと云ふ

●支那人夫の需要　清國勞働者は韓人に比すれば賃金廉く且つ能く勤勞するを以て韓國統監府鐵道管理局にては清國苦力を使用せんと先づ試に目下改築中の沙利院驛（京義線平壤京城間）に一百名の苦力を義州驛より輸送せりといふ

●大連の耶佛兩教（投書）　大連ては基督教と佛教との間に甚しき軋轢を起して互に我田引水的の理屈を並べて勢力範圍を擴張しやうとしてる▲基督信者は比較的品行方正で公共事業にも活動し人格も高い樣に思はれる就中吉田警務課長抔は長老として全力を基督の向上發達に注て居り其他にも有力なる實業家醫師新聞記者にも熱心なる信者が居て直接間接に勢援と補助を與へつゝある▲之とはアベコベに佛教家は東西本願寺を首め他宗ても布教師は居るが怪氣な一種異樣な姿をして衆生濟度に奔走して居るものゝ一向に振はぬも道理彼等の姿は釋徒といふよりも寧ろ墮落せる壯士俳優に近ひ手練たものだ▲本願寺の經營に係る幼稚園も語學校も其內容を窺へは嘔吐の種ならさるはなしとは佛法もモウ末になつた

小國民の作物（四）

遼河の眺め

營口小學校尋常四學年　橫山いく

住める營口の北にながるゝりよー河に、夕方妹をつれてさんぽにまいりました、そしてこーえんにいつて、いすにかけて川をながめてゐました、このかわはどれほどふかいかわかりません、そしておりよく月がでてましてて月のひかりが川におちて銀のーないろがきら〱していきます、また、滊船などがたくさんはいつてゐて、あかりをつけてゐたりしますと、それはそれはなんともたとへよーがないよーにきれいでございます、そして、ながめながらこーえんあたりて、しよーかなどうたつてゐますさす、ずしいかぜがそよそよとふいてきて、ほんとーにゆかいでございます

筆魔墨魔

一昨日大連へ到着した日本銀行の岩程佐藏クンは釣と新派俳句が好きだそうだが女道樂は嫌ひだとの御本人自らの證明、これほど確なことはあるまい▲日銀の檢査部は岩佐クンが兼主事でモウ一人、朝鮮で正二品を貰つた大三輪長兵衞ドンの長子奈良太郞といふ米國仕上げのハイカラ先生が居る蠻カラとハイカラと一つ部屋で每日顏を合はして能くも折あつて行けるものだと記者は只管感ズンしてるのだ、蓋し岩佐クン處世術は餘程うまいと見えるテ▲奈良太郞クンの岩村新男爵から嫁を貰つて華族氣取りの氣障加減たら二目と見られたものではない、之を每日見せつけられた岩佐クンは或は滿洲て奈良太郞式を遣つて見る氣がないでもなからう、併しそんな道樂は御よしなさいよ▲イヤ蠻カラと云へば日銀には吉井友兄といふバンが居る、傲慢不遜なことは夥しいものだ、仝じバンカラでも營業局長の井上準之助クンなんかは極めて書生風てあるが、吉井クンと來ては鼻持がならぬワイ▲共同便所の尊號を奉るべき祇園閣の阿濱裙とは遠からず懷しい日本の古巢へ立ち戻るそうだ、而して尊號は謹しんで新滿妓じめ太裙に讓渡すそうだ、月を枕とし雲を衾とせん色剛は速に往いて奇特なる彼の女の幃帳を襄けて十二分の得度成佛あれかし

公私往來

▲依田治作（三井物產會社參事）長春より來營旭ホテル投宿
▲遠藤藤太郎（同會社長春主任）仝上
▲長谷川明次（同會社員）仝上
▲西宮房次（同會社奉天主任）奉天より仝上
▲香月卯三郎（同會社員）仝上
▲井上好德（同會社鐵嶺主任）鐵嶺より仝上
▲福嶋市太郎（土木受負業）海城より仝上
▲小林文郎（陸軍砲兵大尉）仝上
▲杉山武司（米國エクヰテブル生命保險會社滿洲代表員）大連より仝上
▲稻垣伸太郎（本社主筆）社用を帶び昨夜大連へ向ふ

雜報

●射撃施行　第九艦隊兵員は來る十日より

に參加し平和克復後も旅順要塞司令部付砲兵部長として在職し爾來旅順にありて幾多

●再び奉天馬鐵について　日清の合同に係る奉天停車場より小西門外に至る馬車鐵道は去九月一日（十月七日）より愈々工事に

●日曜講壇　明十三日午前十時より日本領事館裏基督教會にて「最大なる發見」仝午後七時半より元神明[illegible]基督教靑年會に於て「

廣告

◎樓の所謂勉强とは何ぞや　曰優待、曰饋實、曰設備、曰安值

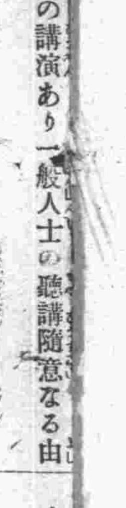
天氣豫報　營口地方　自十一日午後六時至十二日午後六時　北の風晴れ

●弦木砲兵中佐轉任　旅順要塞司令部附砲兵部長同中佐は日露開戰中旅順要塞攻圍軍

ついありたるが去十日任地へ向け出發したる因に仝中佐の後任としての戰跡視察者係は同要塞司令部付山下大尉なりと

るが同工事は本年中に竣功せしむべき都合にして明年は更に線路を延長し城壁を一週せしめ交通に便する由なり

衛氏の講演あり一般人士の聽講隨意なる由



も取引の仕方は一定不變百年一日の如し

一等貸座敷　芳×樓（電話二二九）

大連　東の風曇り　奉天　西の風曇り　最高六三、三　低五六　最低四二、八　低六一

講談　假名太閤記

（第八十一席）　松林伯知口演

秀次の奥へ入りたる其跡を見送りて常陸介暫く考へて居りましたが　常「アヽ〜殿關白に於ては最早長くは保つまい如何なる天魔の魅入りしか情けなき御心になり玉ひしものかな、なれど此儘に棄置いて其滅亡を見るは臣たる者の道とは言はれぬ宜し不肖なれども此常陸介、習ひ覺えし忍術を以て大阪城へ忍び込み、樣子を見はや」と決心を致して、此の木村常陸介とも言はれる人がどうして忍術などを心得て居るかと申すと前回に伺ひました政所の御殿へ伺候を致した際、忍術者を押へたことがある、夫れから急に自分は忍術の必要を感じて頻りに其れを習ひ始めた、此の頃では一通り其の忍術が出來るやうに相成つたのでムいます、けれども此忍術と云ふものは容易なものではない、全く成功すると云ふは難いのでムいますが、兎に角常陸介は一ツやつて見やうと考へた、尤も其の時分忍術で以て名を高くした者がある、是ぞ即ち石川五右衛門と云ふ畏ろしい忍術家でムいます、併し未だ常陸介は其時に此五右衛門をば使はうと云ふ考へもなかつた、旨く往つたら自分が忍んで秀吉をやつて了はうと云ふ考へでありました、實にどうも大膽至極な話で、偖常陸介に於ては其の頃殿下は大阪に居らせられましたから京都よりして態々大阪城へと忍び來り、夜陰に乘じて秀吉公の樣子如何にと窺つて居りました、斯る事とは夢にも御存知ない秀吉公、其の夜は淀殿の方へ御出にならうとして今御廊下を段々やつて來られると、アラ不思議や、遙か向ふに朦朧として得体の判らぬものが現はれた、是は申す迄もない常陸介が忍術を用ひて夫れへ現はれたので、秀吉公思はず御足を止め「誰ぢや〜」と御聲を掛けられたが、其のどうも御威勢と云ふものは非常いものでございます、さしもの常陸介身体ブル〜と慄へた、もうさうなつては忍術も何も利くべくてはない、アツと言ふと身が縮んだ、劍を拔いて殿下に斬掛けんと思つたが中々斬掛ける所ではございませぬ、もう少しで忍術も全く破れ自分の本体が判るばかりになつたが、其内に秀吉公何と思召したかズツと後へ引返して御仕舞ひ遊ばした、夫れが爲に常陸介ホツと云ふ息を吐いて蘇生の思ひをしたと云ふ、殺しに這入つた其人の方が生還つた思ひをするなどと隨分妙な話でございますが、之も全く秀吉公の御威勢の然らしむる所、さア今は據所ないから常陸介、太閤殿下に御秘藏の水注の蓋を取つて聚樂へ立歸つた、幾ら常陸介でも品物を取る位なら譯なく出來ます、聚樂へ歸ると直に秀次公の御前へ出て其水注を御覽に入れた　常「如何でございます、此品は御承知にございますか」言ふと、秀次は知つて居る、堺の茶人の宗易と申す者の持つて居た水注で今は太閤が御秘藏になつて居る、其水注しの蓋でございますから　秀「ウーム、之は貴樣が持つて參つたのか　常「左樣でございます　秀「之を取つて參る事が出來る位なら伯父秀吉の首を取れんことはあるまい　常「所が私には迚も其儀は及びませぬ、何れ忍術に十分達したる者を選びまして、事を遂げるやうに致しまするが、先づ夫れに致しても大小名の幾人でも手馴づけて置く必要がございまする、少し考へました事もございますれば、まア〜私に御任せ遊ばせ」と言ふので、深き巧みのある常陸介、夫れからと云ふものは在府の大小名を招いては色々御馳走をしたり樣々な事を致して今日で申す買收に掛つた所が中には殿下に對して面白からぬ感じを持つて居る諸侯もありますから大分工合も好かつた

●故一位局の御性行（一）

▲朝夕の御勤　一位局は權大納言中山忠能卿の女にて京都石藥師の邸にて御誕生、十八の時始めて宮闕に仕出し　今上陛下御出生後御養育掛を拜命し六歳に達せらるゝ迄中山邸にて御養育遊はされ　今上陛下御即位の後明治五年東京に來たられたるなり、今平素の御性行をよく知り居る人々の談話を聞くに一位の局は朝六時に御起床、顏を洗ひ嗽ぎ朝飯をしたゝめられ（水菓子就中葡萄と無花果はお好き）に水飴二壺を召あがり酒一升と鹽とを入れた風呂に入りて身体を清め庭に出て伊勢の大廟、畝傍山の御陵、孝明天皇の御陵を遙拜され夫より御清めの間に入り午前八時頃より同十時半頃迄法華經をお誦みになると其後方に女中が御付き申して奉書紙に七字の題目を寫し川へ流すのは日課で此間は如何なる人にも面會されさる由、晝食か濟むと夕餉なとは何も召あがらず常に安閑と手を明て置くことを好まれず絶えず御編物や種々の御細工物して居らるれど就中編物はなか〜御上手にていろんな物を御編になつて侍女や其他の人々に下さるのはお樂みの一つ、夜になるとオハジキが御好きで侍女を集め勝負をさせて勝つた者へは種々なる物を下さるとの事なり

●營口に入るの記（六）

湊に歩一歩近つく毎に船中の不安の噂は聲一聲と喧くなつた。餘りの擾々に堪へずして甲板に上れは、琅玕の銀瀲水を離れて漂ひ揚り、大連灣上靜波を疊むの間漪漣は遠く近く金龍を迷はせて居る。唯た一天一水微かなる島影にも會はず船は徒らに無聊と不安の人間を乘せて走るのみである、一尾の鱶は遂に舷を追尾して來る。此間山を見す、霧を見す、一陣の秋風灘洋に疲れて船の救を求むるか如く蕭々として顏を掠めて別る。

下つて見ると矢張例により愬うも騷々しい。混血兒先生を始めとし奉り自稱江戸見婦人も亦た得意の快辨に不安の傳説を流布して居る。常に問題になり度かるのは江戸見婦人の持前と見える。餘計な話だが婦人の夫は滿鐵の社員だ相だ。側に一人の老人か居て、明晩は色々嬉しいともあらう、今晩一晩辛抱すれは明日は大連だ杯と惡い謎を懸ける。

斯くして船は翌日後二時大連に投錨するのであつた。遙かに灣上より望み見れは寂び行く蕭條たる秋景の裡に一抹の煙は上つて市街の空を惆悵の色に罩ふて居る。

聽かて面倒なる檢疫は行はれるのであつた。二列に連んだ男女の一隊、僉な甲板の上に同じ寒さに慄へて居る。角力取、病氣は二日の後に定まる旨を殘し置きて撿疫官は復り行く。さあ大變、船中の騷ぎは一方でない、二日の停船とは何の事だ、角力取だと愚言して見る。斯くして一日は過ぎた。其朝一二等客は交通隔絶し居たるを以て上陸を許さるゝとの報が船中に傳はるや、三等乘客侮辱事件として、船長論難の聲殊に著しく、果ては談判委員の選定となり委員會となり仲々の騷ぎ。女性派中侃々諤々錚々たるものは言はずとも例の江戸見婦人である。

一灣淡く消ゆるところ月は登つて潮の間に徘徊す眞夜中の頃、右舷の門欄に倚つて憂ふ一人の男がある、顏色蒼然として、身は頗る憔悴して居る樣子、聽かて果然と身を空中に跳らせて永劫の淵に泡沫を揚けて消へたのである（留川）

●好角奮話（三）　扶桑生（寄）

▲濱の音は順境に取進み小結になつて友綱の名跡を繼いだ彼が或年大達との立會に大達が例の中腰の仕切にはドウシテモ立つ事が出來ず、イマ〜シサの餘りに立上りに、大達の頭髪を摑みて引廻し、ソレが大問着となり、一時雷から破門された事は有名な話である、惜哉彼は其後間も無く脚氣衝心の爲に倒れたが、今數年の長壽を保ち得たならば必らず大關に進んだであろうと思はれる▲其頃大阪方て生が眼を留めて居たのは三段目の八幡山に文明であつた、文明は其後ドウ成つたか判然せぬが、八幡は師匠海山（今の友綱）と共に東京方に加入し段々出世して西の大關を三場所勤めたが、彼の取口は如何にもキビ〜した取口で、勝つても負けても其取口の奇麗なのが今に眼に殘て居る▲彼が一年小錦と兩關で神戸に遣つて來た時に、生の友人で体格非凡の男が兵庫縣の參事官を勤めて居た、体量も殆んど三十貫近くあつたろふ、時の知事周布公平君が東京相撲を招待した席上で、右の參事官に誰れか力士の一人と座敷相撲を取せる事になつて、其敵手が西の關八幡山と極つたのである、如何に体格が非凡でも、ソコは素人の悲さ、本物の力士然も大關と立合ては勝てる譯が無い、モロクモ八幡山に勝を制せられた、トコロが傍らに在つた小錦が八幡を顧み、至極眞面目の調子でナゼ貴樣負けて上げぬかと叫つたので、並居る人々も一同顏見合せて吹き出し、力士と云ふものは眞に無邪氣で愛嬌なものだと大笑を催した事がある

●大相撲九日目の勝負　左倉川、綾川は烈しく突合ひ綾左差し左倉泉川にキメ出さんとするを綾對へ左四ツとなる左倉の上手投綾巧に殘し下手投打返て綾の勝▲鳳、今錦は双方烈しく突合鳳の出鼻今ヘタキ込に防ぎ鳳の殘るを今素早く左四ツ今肩タスカシ鳳巧に殘トツタリを打しを今殘り烈しく突合ひ突倒て今の勝は大相撲なり▲手柄山、大碇は左四ツ手柄の泉川碇對へ上手投打てテ高根素早く二本差となり釣身に寄を綠打碇の勝▲小綠、高根松は立上る手四ツトケ遺同体倒れ物言付取直し双方烈しく突合高根の突貫綠蹴たくりに防ぎ高根の寄進むをヘタキ込み綠の勝▲い、大林は左四ツいの掬投林殘りいの寄みを掬投にて林の勝▲（中入後）勝閧、西昇は本日中の好取組なれ觀客の呼聲もろ共立上る左四ツ双方烈しく投を打合西の肩スカシ時殘る烈しく投打合水入となる后時の上手投西あぶなく殘り西の下手投殘り時時をスカサズ寄切らんとの勢西の下手投美事きまる▲鳴戸岩と朝日潟は左四ツ釣出て朝日の勝▲琴の浦、有知山は第五日目引分の勝負なり此勝負如何に成るやと觀客手に汗をニギリ双方の呼聲高し立上るや有知の突手烈しかりしを琴對へ手四ツとなる有知烈しく突を琴エタリと左四ツとなるや琴の寄身有知廻り込進まんとするを引落て琴の勝、打出し十時十分

●大相撲十日目の勝負　大連大相撲十日目の勝負は左の如し

勝	負
小猫（したてなげ）	今碇
清見潟（よりたをし）	土州山
今錦（とつたり）	加古川
左倉川（うはてなげ）	手柄山
高根松（かたすかし）	大碇
小綠（したてなげ）	い
琴浦（ひきおとし）	大林
綠川（よりきり）	有明
綾川（いさみあし）	荒木山
勝閧（とつたり）	鳳
西昇（まきおとし）	鳴戸岩

中入後、　三役

有知山（すくひなげ）朝日潟

●大相撲勝星表　大連大相撲十日間の勝星表は左の如し但〇は勝星△は預り×は引分の印

東の方

力士	星	對戰
琴ノ浦	〇〇〇〇××〇〇〇	大碇　西昇　朝日潟　高根松　有知山　小綠　勝閧　い　有知山　大林
い	〇〇〇〇	勝閧　手柄山　左倉川　高根松　鳴戸岩　西昇　琴ノ浦　大林　小綠
小綠	〇〇△〇〇×〇	今錦　大碇　大林　有知山　鳳　琴ノ浦　朝日潟　鳴戸岩　高根松　い
鳴門岩	〇〇〇〇〇〇〇	大林　有知山　十州山　大碇　左倉川　い　手柄山　小綠　朝日潟
高根松	〇〇〇〇	加古川　琴ノ浦　い　勝閧　有知山　土州山　小綠　大碇
鳳	〇〇△〇〇	有知山　朝日潟　西昇　小綠　綾川　大林　加古川　今錦
左倉川	〇〇〇〇	朝日潟　加古川　大碇　十州山　鳴戸岩　清見潟　大林　大錦　有知山　手柄山
今錦	〇〇〇〇〇	小綠　綾川　西昇　手柄山　清見潟　大碇　大錦　鳳　加古川

西の方

力士	星	對戰
大林	〇〇〇△〇〇〇〇〇	鳴戸岩　高根松　小綠　西昇　大錦　有知山　左倉川　今錦　い　琴ノ浦
有知山	〇〇〇〇×〇〇	鳴戸岩　今錦　小綠　大林　小猫　綾川　琴ノ浦　朝日潟
朝日潟	〇〇〇〇	左倉川　鳳　琴ノ浦　い　西昇　手柄山　小綠　勝閧　鳴戸岩　有知山
大碇	〇〇〇〇	琴ノ浦　荒木山　左倉川　鳴戸岩　大林　鳳　今錦　左倉川　手柄山　高根松
手柄山	〇〇〇〇	荒木山　い　濱ヶ崎　綠川　今錦　朝日潟　鳴戸岩　西昇　大錦　左倉川
勝閧	△〇〇〇〇	い　荒木山　綾川　加古川　清見潟　高根松　琴ノ浦　朝日潟　西昇　鳳
綾川	〇△〇〇〇〇〇	高根松　今錦　勝閧　鳳　加古川　十州山　清見潟　有知山　濱ヶ崎　荒木山
西昇	〇〇〇〇〇〇	加古川　琴ノ浦　鳳　大林　朝日潟　今錦　い　手柄山　勝閧　鳴戸岩

婦人の最も美しき時代

婦人は其生涯中何れの時期に於て最とも美しきかと云ふ問題は近頃佛蘭西邊りにて解剖學者美術家等に依りて研究され頗る面白き決論を得たり即ち一定の原則として十五六歳の少女時代よりして二十歳乃至三十歳までは婦人の形体の最も美しき時代として其中にも最も美しき時代は二十三歳位の處なりとの事去るに日本にては鬼も十八と云ふ俚言もあり丁十八九歳位の頃を婦人の最も美しき時とせりペツ博士の調べたる所なりと云ふを聞くに歐洲の女子は二十歳まで身体發育し得るも日本の女子は大約十八歳迄身体發育し得るものとあり又佛蘭西の或論者は婦人の生涯中最も美しき時期は姙娠の初期にありとせり

●鐵嶺巡査の賞與　鐵嶺領事館在勤の木幡野口の兩外務巡査は平生職務に勉勵し殊に過般殺人犯妙法寺金五郎逮捕の功に依り金若干を賞與せられたりと

●靑樓の建築　當地の豪商東盛和の主人葉氏は今回老爺廟の南孫家院内に數百間の家屋を建造して營口の支那妓女を總て此處に收容する目的にて目下建築の最中なりと

●獨乙商人の鐵嶺雜貨店　鐵嶺西門外に於て獨乙人の組織に係る瑞生洋行は清國人の嗜好に投したる獨乙製雜貨店を開き販路を擴張し日本製雜貨と競爭を試みんとて今盛に準備中の由

●旅順のコレラ病　東旅順碇泊漁船惠比須丸漁夫渡邊初治（二一）は九月十七日、同他力丸漁夫井上佐太郎（二五）は仝十八日、步兵第三十五聯隊附步兵少尉小川純吉（二四）及八島町四番戸阿部活版所料理人陣野利三（一五）碇泊漁船同輻丸漁夫山城宮吉（三五）は仝十九日、乃木町三丁目二十四番戸池田政次雇人野村良藏（二一）は仝二十一日灣内蟹子營隔離中の漁船惠比須丸漁夫松尾和吉（二〇）は仝二十三日、港外海岸漁夫森岩井は仝二十四日、三笠町二十三番戸中川左太郎（二九）は仝二十六日虎列剌疑似症に罹り、初治及佐太郎は仝十八日、純吉は仝十九日、宮吉は仝二十日、利三は仝二十一日、岩井は仝二十七日、良藏は仝二十八日孰れも死亡せり

投書かご（いしほんきくた）

▲歸りなん田園將に蕪れんとす去り乍ら今歸つては聊か早過ぎる故暫く我慢して時を待たんかな（圓明子）▲「届きましたか心のたけを明かした手紙が昨日今日一鐵嶺よりとして而も水莖の跡美しき女文字マサカ高須賀お慶チャンではあるまい子（旅順生）▲新市街第二更科の親爺は中々の氣焔家と言ふことで行つて見たら頃者若ひ者が入れ替りとなつて小田卷や煮込み饂飩と云ふ新規な者を賣出して居つて大に勉強する計か其味ひも至極上等であつた（テンプラ好）▲内地の愛人より「今頃は滿洲旅路で露の床さぞや憂路も寒かろと凝乎と寫眞を抱きしめて思はず知らず獨語聞かれはせぬかと振り向けば窓に初更の月冴えて身にしみじみと霜の冷えほんに遣瀬がないわいな（可愛子）▲遼陽の天地を一掃してほしい自稱中等教員の戀愛談、小僧サーベルの腕白、遲見以下の蓄財、六石の銀行破損以來のゴマカシ等（公共生）▲大連湖月の老婆藝者よ角力場て余り物をたべるとコレラになるよ（看々子）▲女の生命は女たる上にある妻とか母とかの問題は第二である女の使命ではないかれらは人生の清華光彩として女は女たるべきである女は世の花である妻母として見るの人間を經濟的に考へたのだ（自炊生）▲疊の上の水練は河海に臨むに足らざると同樣に學問は處世に於ける大傷を招くものぞ存じ候如何にや（大連片影子）▲憐れなるは佛壇を飾る草花の色なり紅きも白きも紫なるも逝きにし人の面影偲ばれて麗はしき内に淋しき趣を添ゆるものなり（せいちやん）

□新川柳（每旬歡迎）

背をねらう計略道て動かない　壽鶴子
たれながら少オし讓る辻便所　同
耶蘇教の初手は後へ腰をかけ　同
玄關先少しは見得に溜て置き　凡骨
まゝ事の御飯一トロすふて置　同
アノ山へ登て來たと富士歸り　寒措大

特別廣告

十月十二日　市街　祇園湯
修繕中休業致居候處落成仕り本日ヨリ相始メ候ニ付續々御來浴被下度候　尚毎朝八時ヨリ營業仕候

牛莊郵便局爲替貯金　金銀受拂相塲　來十月六日ヨリ十月十二日迄
軍票又ハ圓銀壹圓付ニ　本邦通貨金　壹圓〇三錢六厘
電話問合ナ謝絶ス

●都督府と外務省　大島都督より外務省へ提出せる都督府と滿洲外交機關との關係を協定にせんとの要求は外務省も強ち反對にあらず結局婉滑に進行すべしと（五時東京發電）十月十一日午後

●特別運賃定規の實行　來十五日より大連營口に到着すべき豆、豆粕、豆油等に限り特別運賃規定實行湯崗蘇家屯間より大連四圓五十錢營口へ四圓虎石臺より大連五圓十錢營口へ四圓七十五錢新臺子より大連に五圓七十錢營口へ五圓五十錢鐵嶺より大連六圓二十五錢開原より七圓二十五錢昌圖より八圓（十一日午後三時二）

廣告

廣告主へ御用の節は滿洲日報にて見し旨御申添被下度

營口出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆

●酒田丸（十五日未明出帆大連門司神戸横濱行）御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候

●竹島丸（十八日午前六時出帆大沽芝罘門司神戸行）御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候

●營口丸（廿四日午前太沽芝罘長崎門司神戸行）御乘客は全日午前迄に御乘込相成度候

（乘船切符發賣ハ出帆前三時間迄 未明出港ノ分ハ前日午後五時迄）

營口代理店 旗昌洋行（電話二六番）

瀛船營口出帆

摩耶山丸（十五日入港豫定） 頼朝丸（十七日入港豫定） 音羽丸（十九日入港豫定） 御代丸（十月十八日入港豫定） 福陽丸（十三日四日市行）

松茂洋行 電話（五二、五七）

瀛船出帆廣告（營口天津間定期）

長柄丸 萬成源丸 十二日入津

代理店 東和公司（電話四一〇番）

大連出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆

●薩摩丸 十六日正午長崎行
●酒田丸 廿七日正午門司神戸四日市横濱行
大棧橋より發船可致候

日本郵船株式會社大連出張所（電話貳壹〇番）

大阪商船會社瀛船出帆

●大義丸 十九日正午門司神戸大阪行
●開城丸 十五日門司神戸大阪行
●鐵嶺丸 二十二日正午門司神戸大阪行
大棧橋より發船可致候

大阪商船株式會社大連出張所（電話貳貳零番）

松茂洋行瀛船部出帆

●頼朝丸 十五日午後四時營口行
●音羽丸 十八日午後四時營口行
▲乘船切符は吉野町大山通り角〇ト運送店にて發賣可致候

大連市監部通り二丁目（電話二五九番）河邊商店大連出張所松茂洋行

横濱正金銀行牛莊支店

資本金貳千四百萬圓 積立金壹千五百零五萬圓

本支店出張所 横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港 上海 漢口 天津 北京 大連 旅順 奉天 遼陽 芝罘 鐵嶺 安東縣 長春 寛城子

電話十番（支配人室）（百八番事務室）

正隆銀行

營口元神廟街二八六 電話（支配人室三四一 事務室二一〇）

總經理人 深水十八

隆記洋行

西營口老爺閣東小紅樓西南側 西分店 電話四二

和洋ペンキボイル油塗料問屋

ワニシ假漆テレメン コールタ テール ピッチ 塗用刷毛 機械用礦油 トウエイ油 ボテ 光明丹 馬油 鯨油 牛脂 ヘット 布紙ペーパ 繪具藥種 附屬品一式

三木笑蛙館 大阪東區北久太郎町井池筋角 電話東九九五番 東三五一三番

三木塗料製造所 大阪東區西野田中江町 理化學工藝部 電話西五五〇番

忠泰洋行

部卸品粧化外内 大連市磐城町一ノ二

丸越呉服店

大連市磐城町三ノ八 呉服太物小賣部

東瀛大藥房

純良醫藥 工業藥品 著名賣藥 醫料器械 卸 小賣

營口永世街 東瀛大藥房 電話一四八番 振替貯金七〇一

藥劑士 中馬龍造 中馬藥局

分店 營口新市街本町一丁目 營口永世（通順泰東）

專業旅館 東京樓

營口乘車乘船最好の位置（電話一八七）

團隊四人様以上は規定宿料外格安勉強割引可仕候 爲御下宿は面議廉價御賄可申上候

新荷廣告

○○大塊石炭及無煙炭 ○○亞鉛板及洋釘 ○○木炭 ○○セメント ○○日本白米 ○○滑石灰

右各種は昨今屋船音羽丸にて今回到着廉價販賣致候殊に無煙炭は火力強大普通石炭の参倍余の耐久力を有し室内を汚染せず煙筒掃除の必要なし至極經濟的に候市内は御注文次第多少に不拘配達可致

材木商 營口 喜久洋行（電話三一四）

種と苗

定價表は御申越次第進呈

京都市中長者町 朝陽園

機械製煉瓦石發賣

弊製造所義兼而「コルニシュ」式素地型成機械並に崭新なる素地乾燥室建設中の所去月下旬竣工本月一日より全機械力に依り製造室内の乾燥に着手仕候所豫期に異ならず製出の煉瓦石は形狀方正表面滑澤にして装飾用として頗る高尚優美品質緻密耐壓力强靱吸水量僅少に候故土木建築用として適品と確信仕候得共尚實物御一覽の上御高評を相願度先は右御披露迄

營口煉瓦製造所 泰東公司

販賣所 營口牛家屯（電話二四一） 營口元神廟（電話一三五）

旅館 大和館

永世街第三十四號（電話壹壹三番） 店主 前田九一郎

三井物産合名會社大連出張所

●本店 東京市日本橋區駿河町壹番地

●本店及出張所所在地 倫敦、漢堡、紐育、桑港、孟買、瓜哇、新嘉坡、蘭貢、甲谷他、磐谷、馬尼剌、シドニー、香港、厦門、福洲、汕頭、臺北、臺南、廣東、青島、上海、漢口、芝罘、京城、仁川、安東縣、北京、天津、牛莊、奉天、鉄嶺、寛城子、及内地各要所

大連山縣通百三十一番地 電話番號（四百六十番 百七十五番）

營業科目

販賣部 大豆、豆粕、棉糸布、木材、石炭、セメント、煉瓦、麻袋、麥粉、砂糖、亞鉛板、諸器機 各種金物、建築材料、其他内外國製品及原料販賣

倉庫部 當倉庫預證劵（火災保險ヲ付シタルモノ）を所持せらる、方は當地正金銀行にて金融に應ぜらるべき便宜あり

保險部 明治火災 東京海上 保險會社大連代理店

エビスビール

内田直二商店

米國製造ゴム長靴 防寒防水 ゴム底運動靴 小兒用ジカバキ 水運動靴（色ハ黒及白）

獨逸國製黒革用黒クリーム

近來此の黒クリームの摸造品を販賣するものあり登錄商標櫻印に御注意を乞ふ

登錄商標 ●寸法書改正第八版定價表郵劵貳錢御送附あらば進呈す

東京市芝區櫻田伏見町 内田直二商店（電話新橋壹五五壹番）

日本旅館

營口新市街千代田街 專業旅館並に高等下宿 店主 三野傳藏（電話一三〇）

和洋諸紙卸商

大連市伊勢町四二号地 渡邊大連支店

森病院

營口永世街（電話一五五） 内外科 産婦 齒科（入院隨時） 院長 森矯

彌生倶樂部

會席御料理 御旅館 彌生 鐵嶺西門外 新調の玉突臺及將棋盤等備付あり

會席御料理 醉花園

鐵嶺西門外

専業旅館 清林館

室内清潔 丁寧親切 營口新市街 電話三〇一番

第二十四次 大連彩票賣出

頭彩壹萬圓 開彩十月二十六日 裕和盛（電話八壹）

營口同仁醫院

一般患者ノ診療ニ應ス（往診入院隨意）

院長醫學士 松井易四郎 新市街寶來街 電話番號（一七八番事務室 一七一番病室）

よろしい石鹼本舗

内外 卸商 石鹼 文明堂石鹼部

大阪市順慶町三丁目中橋西ヘ入 兵 田村福松（電話東貳七參〇番）

石油使用 文明厨爐 無烟無臭

便利重寶の一例 手間少なき人白炊者に最適

來客ありたるとき直様マッチにて點火し置けば挨拶の了らざる内に湯は沸騰し直に茶を呈する事を得又客と談話しつゝある間に露炊をなして餘裕あり頗る便利只管讚の外なし

人ありたるとき夜中に湯茶を求められ或は牛乳を温むる等にマッチ一本にて辨ずる故少しもいだつことなし

●詳細書は御申越次第進呈

一名下女イラズ

夏季に涼く冬季に暖到る地に適す

製造販賣元 大阪本町通渡邊筋角 島田支店

清國營口元神廟街（電話東一三三六番） 特約店 小宮山洋行

旭金庫

東京 旭金庫 大連市信濃町 滿洲一手販賣 山葉洋行

大連市但馬町三十一號地 東陽商會

冬物揃

洋物店 牛莊新市街 盛進商行 振替貯金口座一万一百九十番 電話二十番

加州組

土木建築業並ニ煉瓦石灰販賣 營口新市街 加州組（電話四四）

飯塚工程局

土木建築請負 煉瓦石、石灰、石材及び各種建築材料

各地出張所所在地 ●大連 ●鐵嶺 ●張臺子 ●廓家店 ●長春 ●湯崗 ●千金寨 ●公主嶺 ●奉天 ●遼陽

營口 飯塚工程局（電話一六五）

鐵嶺 高砂ホテル

高等旅館 磐城ホテル

大連市磐城町（電話壹六七）

南滿洲

明治四十年十月十二日　滿洲日報第六百五十四號附錄　（一）

物價

營口爲替相場　十月十一日

正金銀行一覽拂（百圓ニ付）
- 內地　一〇一圓四分ノ一
- 天津　一〇三圓四分ノ三
- 上海　七一兩
- 芝罘　一〇四圓四分ノ一
- 銀塊相場　廿九片十六分ノ十五

同通貨相場

正隆銀行　受　拂
- 銀貨（百）軍票　九八、六〇　九八、一〇
- 金貨（圓）軍票　九八、二〇　九九、六〇
- 「ルーブル」ト軍票　九九、一〇　一〇〇、六〇
- 墨銀ト軍票　一〇三、〇〇　一〇四、六〇

▲營口物價▼

●大豆豆粕
- ▲豆粕　一兩七
- ▲新豆　九兩五
- ▲全　九兩八

●日本綿布相場（永順洋行調）
- 牡丹牌大尺布一疋　[illegible]
- 桃牌全　[illegible]
- 實字佛青布全　[illegible]
- 全藍布全　[illegible]
- 堅字佛青布全　[illegible]
- 全深藍布全　[illegible]
- 花旗佛（麒麟印）廿碼　二、六〇
- 青布東洋緞子頭等（孔雀牌）一碼　[illegible]
- 全二等　[illegible]
- 東洋花手巾一ダース　[illegible]
- 全毛手巾一ダース　[illegible]

（新市街見本洋行）
- 美濃紙大印（一〆）　七、〇〇〇
- 全松印　六、五〇〇
- 全竹印　六、〇〇〇
- 全梅印　五、五〇〇
- 改良半紙大印　三、三〇〇
- 全金印　三、一〇〇
- 全銀印　三、〇〇〇
- 全一福印　二、四〇〇
- 全生漉半紙上　四、〇〇〇

- 六寸半切大印　[illegible]
- 全金印　[illegible]
- 全福印　[illegible]
- 大七九紙生漉松印　[illegible]
- 七九全竹印　[illegible]
- 全梅印　[illegible]
- 全紙生漉上　[illegible]
- 全中　[illegible]
- 障子紙（六十枚一束三百）　[illegible]
- 越前奉書（八十枚一束百）　一〇、〇〇〇
- 中內（全）　[illegible]
- 四ノ內（全）　[illegible]
- 仙花（一束六百枚）　[illegible]
- 美濃鄙紙上（一千枚）　[illegible]
- 全半鄙紙並（全）　[illegible]
- 全半鄙紙上　[illegible]
- 全並　[illegible]
- 美濃紙（百枚）　[illegible]
- 半紙（全）　[illegible]
- 島の子（十斤に付）　[illegible]
- 圖引用紙（百枚に付）　[illegible]

●支那向窓張紙
- 二尺角〆千五百廿枚　[illegible]
- 一尺八寸角全　[illegible]
- 一尺六寸角全　[illegible]
- 包紙百枚　[illegible]
- スサ紙十貫目に付　[illegible]
- 油紙一枚に付　[illegible]

●洋紙類
- 標準紙百斤に付　[illegible]
- 西六判鳳印　[illegible]
- 菊判　[illegible]
- 赤渡　[illegible]

●木材相場
- 杉丸太一丈（末口六寸）　五五
- 全二間（全）　六〇
- 松丸太三間（全）　七〇
- 杉押角一丈二間（全）　[illegible]
- 杉板四分（一坪）　[illegible]
- 全大分（全）　[illegible]
- 全八分（全）　[illegible]
- 松板八分（全）　[illegible]
- 全正一寸（全）　[illegible]
- 樅板四分（一坪）　[illegible]
- 全（五分入）　[illegible]
- 樅板全　[illegible]
- 杉大角（ト角）　[illegible]
- 仙臺檜　[illegible]
- 北海道松　[illegible]
- 杉貫大　[illegible]
- 全中　[illegible]
- 松垂　[illegible]
- 全正角　[illegible]

●注意　以上は物を標準としたる値なり

●西陣多織物（有賀呉服店）着尺之部
- 特絣縮緬　[illegible]
- 好賞御召　[illegible]
- 紋織御召　[illegible]
- 縞御召　[illegible]
- 綴御召　[illegible]
- 縮緬無地　[illegible]

●石炭類（久洋行）票標準
- 赤阪口上塊炭　[illegible]
- 撫順炭　[illegible]
- 無煙炭　[illegible]
- 木炭八貫一俵　[illegible]

●亞鉛引板
- 大平板廿八番一枚　[illegible]
- 全七番全　[illegible]
- 全八入全　[illegible]
- 平板全　[illegible]

●洋釘類
- 七分五厘（一インチ）百斤　[illegible]
- 一インチ二分五　[illegible]
- 一インチ半全　[illegible]
- 一インチ七分五全　[illegible]
- 二インチ全　[illegible]
- 二インチ半全　[illegible]
- 三インチ以上全　[illegible]

●穀類
- 肥後一等米　[illegible]
- 市内精米　[illegible]

●清商綿布糸綿花相場（一梱ニ付日本品）
- 〇〇十六番手製糸　[illegible]
- 〇〇十六番手　[illegible]
- 十丈老船　[illegible]
- 全彩船　[illegible]
- 人扨茶全　[illegible]
- 紅人竹全　[illegible]
- 大丈金寶星全　[illegible]
- 全燈塔全　[illegible]
- 十丈大小英花旗布（一匹ニ付）　[illegible]
- 全一號二甲全　[illegible]
- 全三號二甲全　[illegible]
- 全二號人馬球全　[illegible]
- 全獅球全　[illegible]
- 十五龍印打連布　[illegible]
- 全老雙兎全　[illegible]
- 全大小英全　[illegible]
- 全七熊星全　[illegible]
- 八丈豐裕炊布　[illegible]
- 同興隆大尺布（百尺ニ付）　[illegible]
- 永學全　[illegible]
- 朱福源全　[illegible]
- 廣大和全　[illegible]
- 公大昌全　[illegible]
- 和順長全　[illegible]
- 大裕清水布（二四ニ付）　[illegible]
- 益成全　[illegible]
- 九華棉花（百斤ニ付）　[illegible]
- 雪錦全　[illegible]
- 東元生全　[illegible]
- 東京全　[illegible]
- 西豐全　[illegible]
- 錦大全　[illegible]
- 鴻肥全　[illegible]
- 朱矯全　[illegible]

（新市街加藤洋行調）
- 菊正宗（三九入）一樽　一八、五〇〇
- 全瓶詰（四打入）一函　二四、五〇〇
- 全進物用一打入全　四、二〇〇
- 札幌麥酒全　九、五〇〇
- スペシャルラ全　一一、五〇〇
- イト旭麥酒　[illegible]
- 蜂印香竄葡萄酒大（四打入）全　一九、五〇〇
- 全小（七打入）全　一三、〇〇〇
- 孔雀印タノ水全　四、五〇〇
- 三ツ矢印シャンペンサイダー全　五、五〇〇
- ヤマサ醬油一樽　三、八〇〇
- 鶴印ソース（六ダース入）一函　一三、〇〇〇
- 和ソース（六ダース入）一函　七、五〇〇
- バタ（一磅鑵百個入）全　七五、〇〇〇
- グリーンピース全　一九、〇〇〇
- （百個入）（三十個入）と　五、五〇〇

▼遼陽物價▲
- 松茸（四ダース入）全　九、〇〇〇
- 百合印蒲鉾（四ダース入）全　一三、五〇〇
- 鮑（四ダース入）全　一五、〇〇〇
- ビスケット（五十磅入）全　一〇、五〇〇
- 白米四斗俵　八、五〇〇
- 味噌一貫目　[illegible]
- 砂糖一斤　[illegible]
- 醬油一斗　[illegible]
- 酒一升　[illegible]
- 石油一罐　[illegible]
- 魚類罐詰一ダース　[illegible]
- 野菜全全　[illegible]
- 牛肉全全　[illegible]
- バタ一ポンド　[illegible]
- ソース半ダース　[illegible]

●菓子類
- ビスケット一磅　[illegible]
- ドロップス罐入全　[illegible]
- スターチ罐入全　[illegible]
- ビール罐詰酒一壜　[illegible]
- 壜詰酒機械口全　[illegible]
- エヂプト煙草百本　[illegible]
- メリケン帽子一個　[illegible]
- 鳥打全　[illegible]
- カラー全　[illegible]
- ワイシャツ全　[illegible]
- フランネルシャツ全　[illegible]
- 木綿メリヤス上下　[illegible]
- シャツ全　[illegible]
- 毛全全　[illegible]
- 靴下一打　[illegible]
- 帝國錦一貫目　[illegible]
- 下駄甕付一足　[illegible]
- 全桐直バキ全　[illegible]
- 全山桐全　[illegible]

- 半紙壹〆　[illegible]
- 硯箱壹個　[illegible]
- 筆壹對　[illegible]
- 墨壹挺　[illegible]
- ツポンツリ一　[illegible]
- 算盤一　[illegible]
- 状袋百枚　[illegible]
- 巻紙一本　[illegible]
- チリ紙一〆　[illegible]
- ネキタイ一　[illegible]
- ネキタイピン一　[illegible]
- 石鹸舶來一　[illegible]
- 全內國製一　[illegible]
- 茶器之揃一組　[illegible]
- 全九谷燒全　[illegible]
- 急須一　[illegible]
- 土瓶一　[illegible]
- 小皿百　[illegible]
- 中皿全　[illegible]
- 三ツ鉢壹組　[illegible]
- 水差一　[illegible]
- 飯茶碗一　[illegible]
- 盃百　[illegible]
- 醋壜百　[illegible]
- 茶正喜撰一斤　[illegible]
- 全川柳全　[illegible]
- 手帳一冊　[illegible]
- 通帳全　[illegible]
- 簿記帳　[illegible]
- インキ黑一磅　[illegible]
- 全赤半　[illegible]
- 石鹸函　[illegible]

- 箸箱一　[illegible]
- ハンカチーフ木綿一打　[illegible]
- 全麻全　[illegible]
- 全絹全　[illegible]
- 人形一　[illegible]
- 足袋黑一　[illegible]
- 全白一　[illegible]
- カタン糸一打　[illegible]
- 香水一　[illegible]
- 壁紙內地製百枚　[illegible]
- 全獨乙製一卷　[illegible]
- 行李竹一　[illegible]
- 全柳一　[illegible]

●精白米（一石ニ付）（西街福榮洋行）
- 特等壹等（◆赤印）　三、八〇〇
- 特等（◆紫印）　三、四〇〇
- 壹等（◆青印）　三、二〇〇

●罐詰類
- 鮭（一斤）四ダース　[illegible]
- 鱒（半斤）八ダース　[illegible]
- 鱒（一斤）四ダース　[illegible]
- 鯖（半斤）八ダース　[illegible]

●化粧品
- 御園四季花壹ダース　大　[illegible]　小　[illegible]
- 御園の雪全　[illegible]
- 御髭とき水全　[illegible]
- 御園齒磨全　[illegible]
- 全壜入全　[illegible]
- チエリーオイル全　大　[illegible]　中　[illegible]　小　[illegible]
- チエリーポマード全　[illegible]

（向井洋行）
- 清酒金露四斗四升　一八、一〇〇
- 札幌ビール四ダース函　一〇、一〇〇
- 醬油ヒ印壹斗　[illegible]
- 全梅印全　[illegible]
- 全櫻印全　[illegible]
- 全福印全　[illegible]
- 東京澤庵漬十二貫　[illegible]
- 嬰印ビスケット一磅　[illegible]

▼大連物價▲

●洋麵 但馬町二番地（日本製粉株式會社）（各一袋）
- 寶船印 二、一八
- 日本旗印 三、三三
- ロシヤ印 三、三五

●洋釘類（壹百斤）
- 四分ノ三インチ 一一、五〇
- 一インチ 一一、五〇
- 一インチ四分ノ一 一〇、〇〇
- 一インチ半 九、二〇
- 一インチ七分五 九、九〇
- 二インチ 八、六〇
- 二インチ半 九、五〇
- 三インチ 八、五〇
- 三インチ半 八、四〇
- 四インチ 八、六〇
- 四インチ半 八、四〇
- 五インチ 九、〇〇
- 六インチ 八、五〇
- 七インチ 八、九〇

●土丹引板類 壹板
- 平板八番 一、九九〇
- 廿六番 三、〇〇〇
- 廿四番 四、一〇〇
- 廿二番 二、六〇〇
- 廿番 三、七〇〇
- 十八番 二、二〇〇
- 十六番 七、四〇〇
- 十四番 五、二〇〇

●鐵板類
- 瓦板六七尺 九、五〇〇
- 仝八尺 八、五〇〇
- 廿八番六尺 九、六〇〇
- 仝七尺 一、〇五〇
- 仝八尺 一、二〇〇
- 廿六番六尺 一、二〇〇
- 仝七尺 一、〇五〇
- 仝八尺 一、三〇〇
- 廿四番六尺 一、二〇〇
- 仝七尺 一、三五〇
- 仝八尺 一、四五〇
- 十二枚モノ 一、八〇〇
- 十一枚モノ 全一枚 七五〇
- 十枚モノ 全 八〇〇
- 厚モノ 百斤 （七、四〇〇）（七、六〇〇）

●木材（秋田商會支店）
- 杉四分板壹間並上壹坪 一、〇〇
- 仝六分板 無節 一、五〇
- 杉六分板 並上 一、二〇
- 仝 無節 一、八〇
- 松壹寸參分板 並上 三、〇〇
- 松正壹寸板 仝 一、〇〇
- 松八分板 仝 一、四〇
- 松六分板 仝 一、三〇
- 樅壹寸參分 無節耳摺 一、八〇
- 樅八分板 仝 一、〇〇
- 樅四分板 並上 一、四〇
- 杉板割 貳間正八分壹坪 三、三〇
- 杉大貫 壹枚 一、〇〇
- 杉中貫 二〇
- 杉小貫 一五
- 杉木摺 一二
- 杉垂木 正寸六分角 一、二〇
- 全 正寸八分角 一、五〇
- 杉 正寸二分角 一、六〇
- 全 正壹寸角 一、二〇
- 松敷居 並品 一、五〇
- 松垂木 正角 一、六〇
- 杉大角 貳間尺〆 下 二、六〇
- 杉挽小角 貳間一才 上 二、〇〇
- 杉押小角 一才 中 一、〇〇
- 松大角 貳間尺〆 一、〇〇
- 北海道松角 全 六、八〇

●洋酒 大山通二丁目（宅合名會社大連支店）
- 靡鹿 大四斗五升 一六、〇〇
- 全 二斗 八、五〇
- 全 瓶詰 四打入 一〇、〇〇
- 札幌ビール 仝 八、〇〇
- 同黑麥酒 仝 一〇、〇〇
- 麒麟ビール 仝 八、〇〇
- 日英麥酒 仝 一〇、〇〇
- 峰印葡萄酒 仝 六、〇〇
- 孔雀印葡萄酒 仝 七、〇〇
- シャンペーン 仝 三、〇〇
- 三ツ矢印サイダー 仝 一五、〇〇
- 洋酒シャンペン（一打） 三〇、〇〇
- ウヰスキー 一二、〇〇
- ブランデー 二〇、〇〇
- リキュール 三〇、〇〇

▼奉天物價▲（小賣相場）

- 日本葡萄 [illegible]
- 生葡萄 [illegible]
- わし印ミルク 四打入 一三、〇〇
- 澤鶴 一樽 [illegible]
- 蜂印葡萄酒 一打 二、〇〇
- 龜甲萬醬油 一樽 一、〇〇
- 全上 二樽入 [illegible]
- 奈良漬 一、〇〇
- 東京澤庵 一、六〇
- うめぼし 一、五〇
- 紅生姜 一、〇〇
- 花辣韮 三斗八升入 一、〇〇
- 白味噌 全十貫入 二、〇〇
- 赤味噌 全 二、〇〇
- 金山寺 [illegible]
- 椎茸 [illegible]
- 仝上 [illegible]
- 淺草海苔 [illegible]
- 鰹魚節（土佐） [illegible]
- 仝（薩摩） [illegible]
- 干瓢 [illegible]
- 片栗粉 [illegible]
- 白玉粉 [illegible]
- 蝋燭 [illegible]
- 高野豆腐 [illegible]
- 燒麩 [illegible]
- 山出しこんぶ [illegible]
- 出シ利尻こんぶ [illegible]
- 白髮こんぶ [illegible]
- 鳴門若芽 [illegible]
- 寒天 [illegible]
- 片子煙 [illegible]
- 柄子煙 [illegible]
- 大和煙 [illegible]
- 胡麻油 [illegible]
- 白絞油 [illegible]
- 石油 [illegible]
- 醬油エキス [illegible]
- 朝日ビール [illegible]
- 豆油 [illegible]
- 豆餅 [illegible]
- 粳米 [illegible]
- 小米 [illegible]
- 高粱 [illegible]
- 小麥 [illegible]
- 大麥 [illegible]
- 小豆 [illegible]

●穀物（每斗）
- 黄豆 三、二〇〇
- 白豆 六、二〇〇
- 仝 二、〇〇〇
- 小豆 五、二〇〇
- 紅豆 六、一〇〇
- 緑豆 六、〇〇〇
- 芝麻 九、〇〇〇
- 谷子 二、八〇〇
- 小米 六、〇〇〇
- 小麥 二、二〇〇
- 粳米 四、〇〇〇
- 日本野米 一俵 一、〇八〇
- 白米 仝 一二、〇〇〇

●銀市（十月六日）
- 數 十吊〇三成
- 銀元 十吊四百二十文
- 現銀 六吊八百 十文
- 銀行票 一九百二十文
- 銀元票 十吊〇二十文
- 金貨 十元二毛
- 日本金票 十一元六毛
- 老帖 八元五毛
- 人力車 十三元一毛
- 日本手形 十八元五毛
- 毎十圓付 十七元四百文
- 日本金票 七元五毛
- 軍票 十二元三八毛

●木材（小西邊門外東亞洋行）
- 杉丸太 一間 一、二〇
- 仝 二間 二、三〇
- 仝 三間 三、〇〇
- 仝 四間 四、〇〇
- 仝角 一坪 一、八〇
- 樅四分板 一、二〇
- 仝八分 一、〇〇
- 仝四分 一、〇〇
- 杉六分 一、二〇
- 松八分 一、〇〇
- 仝一寸 一、一〇
- 仝二間貫 中 一、二〇
- 杉二間貫 大 一、八〇
- 仝 敷居 十枚 一、一〇
- 松二間 一才 一、二〇
- 仝 一、〇〇
- 杉四間足場丸太 一本 一、六〇

▼鐵嶺物價▲

●穀類
- 白米防長 一等 一石 一三、〇〇
- 仝 二等 仝 一二、〇〇
- 朝鮮 一等 仝 一二、〇〇
- 仝 二等 仝 一一、〇〇
- 仝 三等 仝 一〇、〇〇
- 元豆 仝 [illegible]
- 小豆 仝 [illegible]
- 粟米 一担 [illegible]
- 白豆 仝 [illegible]
- 小麥 仝 [illegible]
- 白小豆 仝 [illegible]
- 黄大豆 仝 [illegible]
- 青大豆 仝 [illegible]
- 小豆粕 百斤 一、二五

●味噌
- 白味噌 十八貫入樽 七、〇〇
- 赤味噌 仝 七、〇〇
- 金山寺 五貫入 四、五〇

●漬物
- 奈良漬 八貫入樽 九、〇〇
- 大根味噌漬 十三貫入 九、〇〇
- 東京澤庵 仝 八、〇〇
- 梅干 二貫入 四、二〇
- 赤梅干 二貫入 二、〇〇
- 紅生姜 十二貫入 二、〇〇
- 花辣韮 瓶詰 一四打入 三、五〇
- 白辣韮 仝 三、二〇
- 保萬燒 一斤入十四打 九、〇〇
- 仝萬燒 仝 三、〇〇
- 時雨煮 一斤入四打 九、五〇

●醬油
- 國萬 九升入十樽 三、五〇
- 平和 仝 三、六〇
- 萬歳 仝 三、〇〇
- 全 仝 三、五〇
- 山サ印 一斗入 三、五〇
- 菊香印 仝 三、〇〇
- 上一印 仝 三、〇〇
- 東玉印 仝 二、〇〇
- 甲子印 仝 三、八〇

●酢
- 鶴印 三斗五升入 六、五〇
- 全 一斗入 二、二〇
- 白鶴印 四斗入 六、二〇

●清酒
- 白鶴 正宗 四斗三升 二七、〇〇
- 澤之鶴 四斗三升 二九、〇〇
- 菊正宗 三斗九升 二七、〇〇
- 日本 仝 二七、〇〇

●麥酒及洋酒
- 旭ビール 四打一箱 二一、〇〇
- 仝 四打入 二〇、〇〇
- 札幌ビール 仝 二一、〇〇
- 黒ビール 仝 二〇、〇〇
- キリンビール 仝 二〇、〇〇
- スタンダード 仝 二〇、〇〇
- 蜂印香竄葡萄酒 一打入 五、〇〇
- 白葡萄酒 仝 九、〇〇
- 生葡萄酒 仝 八、五〇

●飲料水
- 孔雀印平野水 四打入 五、八〇
- 福引印 仝 五、八〇
- シャンペンサイダー 仝 六、五〇
- 三ツ矢印 仝 六、五〇
- イナメシ 仝 六、五〇

●罐詰類
- ジャム 一打入 五、〇〇
- 大和煮 仝 一、〇〇
- 牛肉 仝 一、〇〇
- 松茸味付 仝 五、〇〇
- 筍 仝 七、五〇
- 鶏肉 仝 六、五〇
- お多福豆 仝 五、〇〇
- アナゴ蒲燒 八打入 一、〇〇
- 鯛味噌 四打入 五、〇〇
- 海苔佃煮 十打入 一、〇〇
- カレー粉 八打 一、〇〇
- 鷲印ミルク 四打 二、〇〇

●乾物
- 淺草海苔 十帖 二、〇〇
- 椎茸 一貫目 一、五〇
- 干瓢 仝 三、五〇
- こぶん上 [illegible]

●茶
- 正喜撰 上一斤入 [illegible]
- 全 特別 四斤入 [illegible]
- 入用柳印 牛斤入 一、七〇

●洋麵
- 寶船印 一袋 一、二〇
- 寶印 仝 一、三〇
- 菊水印 仝 一、二〇
- 旗印 仝 一、二〇
- 東印 仝 一、三〇
- 比印 仝 一、三〇

●勞働者賃銀
- 一日勞銀 日本人 一圓 支那人 二五〇
- 鍛冶職 二、五〇
- 根職 一、八〇

▼長春物價▲

- 石工 三、〇〇 二、〇〇
- 左官 二、二〇 一、八〇
- 大工 二、五〇 一、八〇
- 木挽 二、五〇 一、九〇
- 鍛冶職 二、〇〇 一、二〇
- 煉化職 四、〇〇 一、八〇
- 指物職 二、五〇 一、二〇
- 桶職 二、〇〇 一、二〇
- ペンキ職 二、五〇 一、七〇
- 人力車夫 三、五〇 二、〇〇
- 土工 一、〇〇 三、〇〇
- 紙帖職 一、五〇 一、七〇

（吊文）
- 豆 一石 三三、〇〇〇
- 小豆 全 三〇、〇〇〇
- 豆粕 一斤 一二、〇〇〇
- 碾米 一石 一、〇〇〇
- 高粱 仝 三、〇〇〇
- 豆油 百斤 三、〇〇〇
- 白砂糖 仝 三、〇〇〇
- 黒砂糖 仝 三、〇〇〇
- 米 （軍票） 二、〇〇〇
- 酒 澤之鶴 一、八〇〇
- 味噌 白菊 一、二〇〇
- 醬油 萬十 一、五〇〇
- 石油 三星印 一箱 一、五〇〇
- 石炭 一噸 一、〇〇〇
- 蠟燭 一箱 四、五〇〇
- 燐寸 仝 五、〇〇〇
- 綿布 白四 二、〇〇〇…一、四〇
- 白麵（ハルピン製一袋百四十五斤入） 一吊文 二五、〇〇〇
- 仝 （米國製一袋四十斤入） 七、五〇〇
- 小豆 一石 三五、〇〇〇
- 麻 百斤 六五、〇〇〇
- 粟 一石 二八、〇〇〇
- 綿 百斤 一〇、〇〇〇
- 毛頭 上 一二、〇〇〇
- 葉煙草 全 百九十枚 八〇〇
- 全紙 百斤 六〇、〇〇〇
- 數嶋 廿入 一、八〇〇（洋）
- 大和 全 六〇〇
- 朝日 全 一、二〇〇
- ヒーロー 一箱 二〇〇（軍票）
- ビール 二、〇〇〇
- 軍票 一圓 官帖 二吊九百三十文
- 金票 一圓 二吊八百文
- 軍票 一圓 洋錢 一圓十二錢
- 金票 一圓 一圓〇七錢